

Title	第二十六卷第三・四號 正誤表
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1953
Jtitle	史学 Vol.27, No.1 (1953. 12) ,p.99- 99
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19531200-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

する態度を詳しく述べる暇はないが、一應後期古墳—末期古墳を考慮に入れての上で一の一例と考えたい。

次に後藤氏は賤機山古墳の古地について説き、前期古墳の如く丘陵そのものを利用せず、丘陵に寄生しているだけであると云い、平地にあるものと同じ形相を呈することを述べられた。筆者しても此の見解は正しいものであろう。また石室構架法の拙劣を論じ、大規模な築造との矛盾に觸れ、同じ傾向は副葬品の馬具についても優れた遺物と粗末な或は稚拙なもの混在が見られるとし、これを後期古墳文化のすべてに見られる文化老衰の相かとも疑つて居られるが、氏もこの考え方を一應保留して「今は暫くこれを賤機山古墳の主の持つていた生活の姿だということにしておく」と云われたのが正しいであろう。

最後に賤機山古墳の地位が論ぜられている。静岡平野に在つては大形前方後圓墳として前期の柚木山神古墳がある程度で、他に本古墳に比肩すべき優れた古墳に乏しい。特に本古墳の大規模な石室や、立派な家形石棺は東海地方全域に見當らないと云う。後藤氏はこの地の倭文部或は歸化人を被葬者に擬し、周邊の文化發達に觸れて居られるが、單に登呂遺蹟、片山廢寺、駿河の國府の所在地であることからこの附近が早くより開け、かかる特殊な古墳の存在が見られたとするのは些か物足りない。何故に唯一つかよ

うな古墳が存在するのかと云う點もより深く考察して戴きたかつたし、筆者としては登呂遺蹟と本古墳との關係、或は年代差についてもなお一層慎重に検討すべき餘地があらうかと秘かに考えて居る。以上紹介を中心とした氣づいた點を記したが、〆切に追われて意を盡しえなかつたことをお詫びしたい。（清水潤三）

第二十六卷 正誤表

頁	行	誤	正
一六二	上段二行	雨倉干城	雨倉子城
同	同	六月二十二日東	六月二十二日版權免
同	同	東京：	許、東京：
同九	同六	デニング	デニング
同十五	巧ミナル宛然タリ	巧ミナル「宛然タリ	巧ミナル「宛然タリ
同十六	雨倉干城	雨倉子城	雨倉子城
下段六	海軍者	海軍省	海軍省
同十	デニング郷	デニング卿	デニング卿
同十九	演説	演説	演説
同二十二	(豊浦生ノ譯カ)	(豊浦生ノ所論ニ對スル評)	(豊浦生ノ所論ニ對スル評)